

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900394		
法人名	社会福祉法人 ふたば会		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	福岡県小郡市寺福童949-40 (電話) 0942-41-2323		
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 31 日	評価結果確定日	平成 25 年 1 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成17年7月1日開設時より地域の住民の一員であることをアピールして、いつでも地域の方が自由に相談やお話しが出来る場として活動してきた。毎月発行している地域用広報誌は回覧版で読んでいただき認知症介護に対する理解や協力の輪が広がっている。年2回の避難訓練には運営推進会議で提案してできた「幸の地域協力隊」のメンバーに積極的に参加協力を頂いている。毎月定期的に開催している管楽器の演奏会や車いすレクダンスは他の事業所への声かけや参加で職員同士の交流の場につながりお互いの情報交換にもなっている。地域住民の方達と共に認知症になっても安心して住み慣れた地域で生活できる環境づくりに力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 11 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

県道沿いの住宅街の中央に位置する、見晴らしの良い高台にある2階建て事業所である。1階に地域交流室、2階に1ユニット事業所として設立していたが、1年前に地域交流室が小規模多機能型居宅介護として併設されている。地域の方がよく集う花公園が隣接しており、1・2階からの景観が素晴らしい。定期的に行われる運営推進会議の中で生まれた「地域協力隊」の結成で、災害時の避難訓練・介護相談等、気楽に寄れる事業所として地域の人から信頼を得ている。職員同士のコミュニケーションもよくとれており、事業所理念を常に意識しながら、利用者の健康状態の変化等を重視し、ケアに努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は「一人の笑顔はみんなの笑顔」で、幸の理念は「1. 明るい笑顔を忘れません、2. 生きがいづくりのお手伝いをします、3. 私たちは支え合う仲間です、4. 幸は地域の輪を広げる出会いの場所です」であり、職員全員で作上げた理念を実践している。	設立時、地域密着型の視点で「地域の輪を広げる。笑顔・支え合う仲間」等と理念を具体化し、全職員で作上げたものである。職員は、理念を書いた自分用の手帳を常に身に付け、意識しながらケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し住民の一員として地域とつながりを持っている。毎月、地域広報紙を回覧版で読んでもらい行事参加にも自由に参加していただいたり、地域の行事への誘いも利用者と共に参加して交流している。事業所の隣の花公園が剪定の収集場所であり、収集日には一緒に手伝ったり、休憩時のお茶の差し入れをしたりしている。	自治会に加入している。月毎に、介護の事・役立ち情報・行事予定を書いた広報紙を地域に回覧している。ボランティアグループ・小学生の訪問や、中学校の職場体験等が定着している。近所の人々が立ち寄り、おすそ分けする間柄が作られている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとして参画したり、地域の介護講座にも積極的に出張講師として認知症の理解や支援につなげている。地域の小中学校の職場体験や社会学習の場として受け入れて認知症の人も普通のひとりのお年寄りだと理解してもらい人権教育につながっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況や活動報告、サービスの実際評価や取り組み等意見を話し合っている。地域での困難事例の相談や解決法など積極的に意見を出し合いサービスの向上につなげている。幸の地域協力隊は運営推進会議で話し合い結成。不定期に実施している介護教室、小学校との交流なども推進会議での要望の取り組みである。	定期的に運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見や要望、質問等をもらっている。介護教室・地域協力隊（ふれあいネットワーク・区長・民生委員）は、推進委員会での要望で結成される。そこでの話し合いをサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとの連携で認知症サポーター養成講座を開催したり、認知症家族の会「笑顔の集い」のメンバーとして参加し認知症の心理や対応のアドバイスなど伝えることもある。市の広報紙に介護教室の案内を掲載してもらっている。困難事例など常に担当者とお互いに相談し合い協力関係を築いている。	日頃から、介護保険課窓口に行き連絡や相談を行うほか、メールでの報告も行っている。地域包括支援センターとの連携で、認知症サポーター養成講座や3ヶ月に1回程度の介護教室を開く等、常に担当者と相談し合い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当時より身体拘束をしないケアを実施してきた。毎月の職員研修やカンファ時に必ず拘束禁止になっていないか話し合っている。拘束には身体だけではなく言葉の拘束もあることを具体的に理解している。玄関は夜間の21：00～翌朝7：00までが施錠で日中は常時開錠している。	玄関にセンサーを設置し、日中は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守り・付き添い等を行っている。身体拘束に関するマニュアルを持ち、見守り方法の徹底・リスク対応等、全職員は外部研修や内部でテキスト等を使い勉強している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は地域包括が開催する小都市高齢者権利擁護勉強会のメンバーであり、定期的に勉強してきたことを職員に伝達している。職場研修でも必ずメディアで虐待の報道等があればその都度話し合う機会を作り、虐待防止の徹底に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が高齢者権利擁護勉強会のメンバーであり定期的に行っている。家族から相談があった時に全職員が制度について説明できるよう、パンフレットや書籍を準備していつでも活用できるよう支援の体制づくりをしているが、新しい職員は苦手意識があり、現在勉強中である。	制度に関して、利用者・家族等に契約時に説明している。管理者が高齢者権利擁護勉強会のメンバーでもあり、職員は制度について、テキスト・パンフレット等で勉強している。玄関窓口には、誰もが自由に持ち帰れるようにパンフレットを用意している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはきちんと説明し不安や疑問点がないように納得して頂き手続きを行っている。契約に変更が生じた場合は、利用者や家族にその都度十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や親族がいつでも気兼ねなく意見や要望が言える環境作りを心掛けている。玄関には意見箱として職員がネーミングした“鶴のひと声”を設置している。ホーム内に第三者意見等の案内も掲示したり、介護家族の集いへの参加も勧めたりしている。	利用者・家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会がある。利用者の願いや要望等があった際には、解決につなげている。家族には面会時にも声をかけ、話しやすいような環境づくりに努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議（カンファ、研修を兼ねる）で職員が発言しやすい環境を作っている。常に、一人ひとりがふたば会の顔であり、運営に関わっていることを認識して率直な意見や提案を言える機会を作っている。職場以外でのコミュニケーションの場も設け風通しの良い職場環境を心掛けている。	自己評価は全職員で取り組み、日頃の実践を振り返る機会になっている。職員は気付きがあれば、直ぐ管理者に意見や提案が出来る環境にあり、利用者のケア記録の改善に取り組んだ。申し送り簿だけでなくホワイトボードも使用し、サインで確認をしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員がやりがいや向上心を持って働けやすい職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用は性別、年齢等を理由に対象から排除することはない。仕事は楽しく生き生きとすることが事業所のモットーなので、職員が能力を発揮でき自己実現できるよう配慮している。	職員は、能力を発揮して自己実現の権利が十分に保障されるよう、資格取得や研修の機会を促している。年齢的に、また夜勤が出来ない条件である場合は、その人に応じた職場環境で勤務してもらっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職場研修やカンファで人権を尊重したケアに取り組んでいるか話し合い職員間で認識を共有している。また、定期的に身体拘束や高齢者権利擁護勉強会に参加し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	職員は、人権に関する内・外部研修に参加している。外部研修後は、月1回のミーティング時に、テキストによる内部伝達研修を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や向上心を把握し法人内外の研修を受ける機会を確保している。スキルアップのための資格修得にも援助している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に事業所で演奏会や車いすレクダンスを開催し他の事業所にも参加を呼び掛け交流する機会を作ってネットワーク作りをしている。お互いの職員間が顔見知りになり勉強会や行事での行き来が出来よう活動している。他の事業所と交流することでサービスの質の向上へつながっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい入所者の方には入所前に面談し、顔を覚えてもらうことから始め、本人が訴えやすい関係づくり、困っていることや不安なこと等傾聴しながら安心できる環境作りを大切にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さんだけではなく家族等の困っていること、不安なこと、要望等にもきちんと傾聴し家族の思いを受け止めている。そして、家族と共に利用者さんを支える関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行い、地域包括センターや他の事業所との連携でサービスにつなげるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中に“私たちは支え合う仲間です”と、挙げているように暮らしを共にしながら教えてもらったり困っている部分をお互いが助け合ったりして協働出来る関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、《幸広報紙》を発行し、日々の生活の出来事や季節毎の散策で気づいたこと等伝えてたり、季節の衣替えは家族にお願いし共に支えていく関係を大事にしている。遠距離の家族には定期的に手紙を書いたり電話で利用者さんと話せる機会を作り家族の絆を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事や花見時は家族にも誘いの声をかけて自由に参加してもらうように心がけている。また、馴染みの友人や家族と外出や食事が一緒に出来る場を提供したり、冠婚葬祭にも出席出来るよう支援している。	利用者が地域や友人との関係を継続できるように働きかけている。利用者の誕生日プレゼントとして家族の協力を得ながら、要望される場所へ出掛けている。墓参り・温泉・ウナギを食べに行く・馴染みの友人を訪ねる等、支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間は職員も一緒に同じテーブルを囲んで食べたり話をしたりして利用者同士の関係がうまくいくように支援している。職員が調整役になり支え合える関係づくりに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方にも夏祭りや行事の案内の声かけを行い気軽に立ち寄れる関係を大事にしている。独居になられた家族には、こまめに声をかけたりして困り事や相談等気兼ねなくできる関係を大切にしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを上手に伝えることが出来ない利用者さんには、表情や体動等で本人の思いをくみ取れるよう努力している。常に職員側での思い込みでなく、その人のこれまでの生活習慣や思い、意向の把握を心掛け、家族の協力を得ながらその人本位のケアに努めている。	利用者の生活習慣や不安、したいこと・出来ること・嬉しい事、言葉や表情・体動等で思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり生活環境が違い馴染みの暮らし方も異なる為、家族やサービス事業者から情報収集し今までの暮らしの把握に努めている。出来るだけ本人の馴染みの生活環境に近づけるよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝ゆっくり起きる方、食事をして少し横になれる方、みんなと一緒だと安心する人など一人ひとり一日の過ごし方が違って当たり前と捉えている。食器洗いを手伝ってくれる方、雑巾縫いをされる方など強制ではなくその人の思いを大事にしている。毎日バイタルチェックして心身状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎の担当は決めずに、本人や家族、かかりつけ医などの意見やアイデアを基に全職員で話し合い気づきや情報交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。毎月、カンファ時にプランの適性を話し合いモニタリングを行っている。	モニタリングは随時行っているが、毎月1回ケアカンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。担当職員が本人家族の意向や情報を考慮しながら「車椅子移動ではなく二人で抱えて歩かせてはどうか」等の意見を出す等、個別の具体的な介護計画を作成し、本人・家族の同意を得ている。計画の実施は毎日チェックし、確認を行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人ファイルに記録している。小さな気づきや変化、工夫など記録に残し全員で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添い、入院時の面会と洗濯物の持ち帰り、結婚式へ出席のための送迎、お葬式への参列の付き添い、かかりつけ医の往診など、生活の継続や重度化した場合の入院回避にて看取りケアの支援など柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に暮らせるよう地域住民のふれあいネットワークメンバーや民生委員、区長さんなどで“幸の地域協力隊”を結成して災害に向けた避難訓練を実施している。また、小中学校の学習の場として協働し合い豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を優先して、利用者各自のかかりつけ医と連携しながら適切な医療が受けられるように支援している。現在、2名のかかりつけ医が往診に見えている。急変時や体調に異変があればいつでも連絡が取れる関係を築いている。	本人や家族が希望するかかりつけ医との関係を築いている。かかりつけ医の受診は日頃の状態を伝えるため職員が同行し、かかりつけ医の往診も立ち会っている。受診後は家族に連絡を行っているが、医師から家族へ直接、結果や相談、説明が必要な場合もある。家族が付き添う場合にも職員が同行している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション・ハートフルシマダと契約して週1回の訪問、24時間の対応で、小さな変化や気づきなど情報を伝えたり相談して適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、毎日面会に行き状態把握に努め早く退院できるように病院関係者と情報交換や相談に努めている。家族に状態の説明があるときは必ず家族の了解のもと同席させて貰っている。常に病院関係者との関係づくりを大切にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく可能性が見えた段階から本人や家族等と方向性を話し合い、事業所でできること等十分に説明し納得されたうえで要望を優先している。看取りを希望された場合は、かかりつけ医、訪問看護、家族、職員等で方針を共有し連携して本人らしさを大事にするケアに取り組んでいる。	重度化した場合の事業所の指針書がある。入居時、また重度化していく状態である時、利用者の状態にあわせた説明を行い、その都度方針に沿った確認を行っている。事業所で看取りを希望する場合は、本人・家族、かかりつけ医、訪問看護、全職員が方針を共有し、終末ケアに取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急処置や初期対応の訓練を定期的に行っている。急変時や事故の対応についてマニュアルを作成している。A D Eも設置し定期的に勉強会を行って実践力を身につけるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年2回、地域協力隊とともに避難訓練を実施している。地域協力隊の緊急連絡網も作成してもらっている。職員間では、どのように非難するか方法や避難経路の確認など対策の話し合いを定期的に行っている。	地域住民の「地域協力隊」が編成されており、避難訓練では職員と12～3名の住民が避難場所である隣接公園に誘導する等の役割を分担している。地域からも避難場所として期待されており、お互いの協力体制が築かれている。非常用備品・飲料・食料等は事業所台所に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には尊敬の念を持って接するようにしている。一人一人のプライドを尊重した声かけや対応を心がけている。毎月の職員研修では職員側での介護や声かけになっていないか振り返り場としている。自分が介護される側として対応するように心がけている。	管理者は、権利擁護の研修を日頃のケアに活かすため、入浴や排泄時の介助、あるいは入室時・その他の介護の声かけが利用者のプライバシーを損ねないケアであるか振り返りを行い、職員と確認をしながら利用者の人格を尊重した支援を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを大事にしている。利用者の中には自分の思いや要望が表出できない方には2者選択などで声をかけて自分で選べるよう働きかけも行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさのペースを大切にしている。朝はゆっくり起きたい方、新聞を自分の好きな場所で読みたい方、部屋で自由に過ごしたい方など利用者側の希望にそってその人らしく支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じたおしゃれができるよう衣替えの依頼を家族にお願いしたり、毎月ボランティアの方によるビューティークアで маникュアや口紅の色を自分の好みの色を選んでおしゃれが楽しめるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や食器洗いなど出来ることは手伝いをお願いしている。献立は利用者の方の好みを聴いたりして季節感や嚥下能力に合わせた調理に工夫して提供している。職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を一緒にすることで大家族の団欒の楽しみにつながるよう支援している。	職員は、ミキサー食、お粥、普通食等、それぞれの利用者の状態に合わせた食事を提供し、見守りや介助、会話をしながら利用者と共に食事を楽しんでいる。利用者の誕生日には好みの料理を注文したり、おやつや誕生日ケーキは楽しみにしている。職員と共にお椀など軽い食器の後片付けを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の食事量や水分を把握している。嚥下能力が低下した人、咀嚼力が低下した人などその人の状態に合わせた食事を提供している。食事量が低下した方はかかりつけ医と連携して高カロリー食や点滴で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアの手入れを介助したり声をかけて清潔保持に努めている。自衛で口腔ケアが困難な方は定期的に訪問歯科のよる口腔内の手入れと点検を行ったり、指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を基本に利用者一人一人の排泄パターンや習慣を活かした排泄ケアの支援をしている。現在、寝たきりの方以外はトイレ排泄で対応している。	排泄は、トイレ排泄を基本とした自立支援の援助を行っている。施設からの入居や退院時はおむつ使用が多いが、プライバシーを確保しながら排泄を急がせずゆっくり介助を行うことにより、徐々に布パンツに移行、尿意が戻ることを経験し、排泄の自立に向けた取り組みを積極的に行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として、毎日朝食時にヨーグルトを摂取してもらったり繊維の多い食事を提供するように工夫している。また、朝食後は必ずトイレに座ってもらうよう取り組んでいる。腹部マッサージが必要な方には個々に応じて対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	曜日や時間帯は利用者の体調に応じて対応している。毎日入浴準備を行い、それぞれの方の希望や状況に合わせた柔軟な対応を行っている。現在、入浴拒否する人はいない。	入浴は午後から毎日準備している。利用者の希望に応じて、個々に添った入浴支援を行っており、ゆず湯等入浴が楽しめるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活ペースに合わせて短時間の昼寝をする人や好きな時に安心して休息できるよう支援している。利用者全員が眠剤は使用せずに夜間は気持ちよく休まれている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬記録をとじ込み職員が内容確認できるようにしている。受診時に薬の変更があった場合は必ず、個人ファイル、申し送りノート業務日誌、ホワイトボードなどに書き込み、全職員の周知徹底と症状の変化の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物が得意な方は雑巾を縫ってもらい、小学校との交流時にプレゼントして喜ばれている。茶道の師範だった方にはお点前の作法を覚えてもらったりお茶を点ててもらったりなど、活躍できる場を提供することで張り合いや楽しみにつながるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日はその日の要望で散歩したりドライブに出かけたりしている。季節ごとの花見は全員で出かけるように支援している。桜や藤の花見は近隣の地域の公園に出かけ住民の方との交流を楽しみにしている。また、家族と一緒にいつでも出掛けられるように協力している。	隣接した花公園への散歩、日用品や洋服の買い物、季節毎の花見や随時ドライブ等を行っている。誕生日には好きな場所に連れて行く取り組みがあり、雛祭りの見物や花見に家族と合流することもある。車椅子の利用者や健康状態を考慮して近場を選択する等、全員が外出できるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる人は自分でお金を所持されている。管理ができない方は事業所で預かり、買物や外出時に自分でお金を使えるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で手紙が書ける方は書いていただき投函だけ援助している。毎年の年賀状は直筆で書けるよう支援している。一文字でも書いてもらうことで家族は喜ばれている。遠距離の方には電話で話せる機会も作っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファを配置して自分の好きな場所で過ごせるよう工夫している。季節感のある花を飾ったり共同で作成した貼り絵を飾ったりして居心地良く過ごせるよう工夫している。臭気にも配慮して不快感を与えないように注意している。	共用空間は清潔で天井からの自然光もあり落ち着いた雰囲気である。壁には利用者の日常の写真や会報、季節感のあるものが貼られている。利用者は、ゆったりしたソファや食堂のテーブル等気に入った場所で過ごしている。時々ソファの位置を変え、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が気兼ねなく過ごせるようソファ以外にも椅子を配置したり自分の好きなテーブルでゆっくり新聞を広げて自分のペースで過ごせるような居場所の工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は家族と相談しながらタンスや飾り棚、椅子など持ち込まれて居場所づくりに工夫している。お位牌やアルバムを持参されて安心して過ごせるよう配慮している。	居室にはプライバシーに配慮して名札を付けていないが、異なるのれんで区別している。利用者の使い慣れた小物、位牌、家族のアルバム、筆筒等が持ち込まれている。家族の要望で、2階ベランダの日よけとしてラティスフェンスで覆った居室もある。色違いのカーテンを取り付ける等、個性的で居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月の職場カンファで利用者の一人一人のできること、できなくなったことなどを話し合いどうしたら現状レベルを維持できるか、環境をどのように工夫すれば自立した生活を安全に過ごせるかアイデアや対応など話しあって安全な環境づくりに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない